

## 終了報告書<短期プログラム(3か月未満)用>

報告年月日 2018 年 3 月 7 日

留学プログラム名	キャンパスアジアプログラム		
所属学院等 (学院/類/学部/研究科)	物質理工学院		
所属系・コース等 (系・コース/学科/専攻)	応用化学コース		
卒業予定	2019 年 3 月	帰国時の学年	修士 1年
留学先国	大韓民国		
留学先大学等	KAIST(Korea Advanced Institute of Science and Technology)		
留学期間	プログラム期間:	2018 年 1 月 2 日 ~ 2018 年 2 月 28 日	
	実際滞在期間:	2018 年 1 月 1 日 ~ 201 年 2 月 28 日	
留学中に受給した 奨学金	受給の有無:	有	種別: 給付
	奨学金名称:	KAIST 奨学金	
			月額 90,000KRW

### ① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

キャンパスアジアプログラム

KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology)

### ② 留学前の準備

留学情報の入手方法・・・インターネットおよびフライヤー、また留学経験者からの話

専門分野、語学の準備方法・・・インターネット、および参考書

留学先大学の指導教員との準備・・・メールでのやりとり

ビザ取得方法・・・横浜韓国大使館

住居の探し方・・・寮

### ③ 留学中の活動及び感想

留学中の活動・・・研究活動、Fieldtrip

研究活動は研究分野が違うこともあり、新しい領域の視野を広げることができた。

Fieldtrip では韓国の地方を訪れ、観光を楽しんだ。

### ④ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

日本人が KAIST 内に自分のみであり、全て英語でのコミュニケーションだった。また一人でさまざまなことができるようになった。

## ⑤ 留学費用

渡航費・・・航空券は支給される。しかし荷物超過料金は支給されない。航空会社がアジアナ航空であったため、預け荷物が 23kg 一つと少なく、23kg 以内に収めなくてはならない。

プログラム参加費・・・無料

生活費・・・食費。毎食 4,500KRW 程度(学食)。その他日用品は全て必要。

住居費・・・寮費用。1ヶ月 2万円程度。KAISTでは日割り計算(1ヶ月ごとではなく、宿泊する日数で金額がきまる)なので、留学期間が、少ないほうが金額はかからない。

保険料・・・大学加盟のものに必ず入らなければならず、2ヶ月で 24,000 円程度。自費負担。

奨学金・・・1ヶ月 900,000KRW。1ヶ月以上滞在しないと奨学金はもらえないとパンフレットに書いてあるが、そんなことはなく、3週間程度でも支給される(奨学金を払うのは KAIST であるため、KAIST との交渉次第だと思われる)。清華大学から来ていた学生は次のセメスターが始まるという理由で、3週間程度で帰国し、奨学金は1ヶ月分もらっていた。

## ⑥ 留学先での住居

住居(寮)・・・男子寮は相当汚く、覚悟したほうがいい(アンラッキーな例であったと願いたい)。自分で綺麗にする気合いが必要。部屋も非常に狭い。かならず 2人1部屋。

申し込み方法・・・KAIST のコーディネーターが全て手配してくれる。

ルームメイト・・・人による。私の場合は匂いを気にしない人が一緒だったため、異臭をはなつタオルがかけてあるのが若干不快だった。就寝時間が非常に遅かったりする人もいたり、運次第。いい経験にはなると思われる。

## ⑦ 留学先での語学状況

留学期間中は基本的に英語を使用。TOEIC800 程度あれば日常会話は大丈夫。しかし街では英語を話せる人はほとんどいないため、韓国語を習得したほうが望ましい。韓国語の授業に参加できる。

## ⑧ 単位認定(互換)

なし

## ⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

とりあえず言うてみることを心がける。日本人は察するようになっているかもしれないが、韓国で

は言葉にしないと伝わらない。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

日本人がいないため、一緒に遊びに行く人がいない。中国人と遊べばいいかもしれないが、中国からの留学生は非常に多く、中国人同士で中国語を話すため、なかなか会話に入って行きづらい。もはや中国語を勉強したほうがいいのではと思うほど、留学期間中に中国語を聞いていた。私の場合はスポーツで仲良くなった。バドミントンやバスケットボール、ビリヤードを共に行い仲良くなった。スポーツはコミュニケーションだと体感した。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

留学費用は非常に重要であるため、ずうずうしく担当者に言うことが大事である。また、誰かを誘うことができたなら誘うべきである。特に日本人。もしくは日本人が他にエントリーしているかどうかを聞いて、応募することも一つの手だと思う。